

芸工大での、“副手”

という特別な働きかた。

ココ（芸工大）ならではのシゴト

芸工大の“副手”は単なる事務職ではなく、実践的な学びをはじめとする芸工大独自の芸術・デザイン教育を支える中心的で、重要な役割を担っています。

日々、学生と教員、学生と事務局、そして学生と教育とをつなぐ、まさに**芸工大の学びの『中核』**を担う存在でもあります。

得意なことを活かしながら、日々芸術・デザインの力を身近に感じることができる環境で力を発揮してみませんか？



東北芸術工科大学

“副手”の役割と重要性

芸術大学における“副手”の位置づけと多大なる貢献

芸工大の“副手”は一般的な大学職員とは異なる特別かつ重要なミッションを担っています。

- ・ 学生の創作活動や演習をサポート
- ・ 学生と教員、事務局の橋渡し役として機能
- ・ 演習の材料や機材の準備・管理・メンテナンス
- ・ 安全管理と適切な学び環境の維持
- ・ 学科ブログやSNSの発信（学科によって）
- ・ 新学期のガイダンスやオープンキャンパス、入試、卒展などのイベントの運営や準備

“副手”は学生にとっても、教員にとっても、芸工大の教育の質を高める重要な存在です。専門性と柔軟性を兼ね備え、大学の教育理念を実現する陰の『主役』として日々活躍しています。

芸工大の教育の要、それが副手です。



たくさんの方との関りと日々の刺激

この環境の最大の魅力は、**多様な方々と関ることができる**点にあると感じています。学生をはじめ、人生の先輩とも言える先生や事務局の方々、また外部からお越しいただく非常勤講師の先生など、**年代も職種も幅広い方々と出会える、特殊で非常に興味深い環境**です。学生



工芸デザイン学科副手
関 ななみさん

からは活力を、先生からは自分の制作に関して助言や知恵をいただくなど、**日々刺激**を受けています。これは、**事務職でありながら「人と関わる仕事」という特性**を持っているからこそその貴重なご縁だと感謝しています。

いくつもの“ありがとう”

「教員と学生の間で板挟みになって大変そう・・・」というイメージを持っていませんか？実際、僕もそう考えていました…。しかし、いざ自分がその立場で働いてみると、**教員からも学生からも常に感謝の言葉をもらえる**ことに気づきました。もちろん、仕事が大変な場面はたくさんあります。急な買い出しや予算管理、展示はたくさんあります。急な買い出しや予算管理、展示の際の美術館とのやりとりなど、

気が休まらないことも少なくありません。それでも、教員や学生の「**ありがとう**」に支えられて、不思議と前向きに続けられています。板挟みになるどころか、むしろ**背中を押してもらっている**と、日々実感しています。



美術科洋画コース副手
半澤 凧さん

学内は“美術館” ～癒しと充実したオフタイム～

ギャラリーや展示スペースでは、日々、**学生や先生方の作品展**が催され、**アートに触れることのできる贅沢な職場環境**です。心が豊かになり、リフレッシュされるので、忙しいときでも**気持ちにゆとりが生まれます**。



企画構想学科副手
鹿野 育子さん

前職では不規則で、徹夜が続くことも多く、体力的にハードでした。その点、いまの職場は**基本的に残業もなく業務後の時間を有効活用**できるのでワークライフバランスを保つことが可能です。オフタイムは犬と触れ合って癒していますが、無理のない範囲で個人の仕事も続けています。

職員紹介① 企画構想学科副手

鹿野 育子さん

01 経歴

1992年 東京女子大学 文理学部 日本文学科卒業

卒業後 アパレルの販売接客や出版社での雑誌・書籍の企画・編集・ライティング

2016年 フリーランスの編集者・ライターに

2025年 現職



02 ある一日の流れ

08:45 出勤、メールチェック、準備室の清掃など

10:00 学生対応、事務作業（翌日の授業の準備、書類作成、伝票処理、備品管理など）

12:00 学食で昼食

13:00 学生対応、事務作業（議事録作成、イベント準備）

17:45 退勤

18:45 帰宅、愛犬と散歩

03 得意分野や以前の活動

東京女子大学を選んだ理由は、当時、源氏物語に魅了されていて、源氏研究の第一人者である先生のもとで学びたいと思ったからです。

登場する女性の中でも好きな朧月夜について卒業論文を書きました。

卒業後は編集者として、料理・健康・美容ジャンルを中心に、書籍、雑誌、Webなどのメディアで企画構成・



編集・ライティングを担当。制作した本は200冊以上。著者やスタッフと信頼関係を築きながら、売れる本を作るため、1冊1冊、全力で取り組んできました。

04 やりがい

オープンキャンパス（OC）などのイベント時は学生と一緒に運営・準備を行いますが、学生との関わりも楽しく、頑張っている姿を目の当たりにし、無事にイベントが終わって達成感でいっぱいの子を見ていると、こちらにも嬉しくなります！（教員と職員が一体となって物事に取り組んでいるのが芸工大のよさであると、入職時に学長からお話がありましたが、）先生方が優しいです！

入職1年目なので勝手がわからない部分も多いのですが、きめ細かくフォローしてくださり、感謝しています。授業の職員さんにも質問ばかりしていますが、いつも丁寧に教えてくださいます。

夏のOC後には、先生主宰でお疲れさま会を開いてくださるなどのお気遣いもあり、交流の場を設けてくださることが仕事でのスムーズなコミュニケーションにもつながっていると、思います！



職員紹介② 洋画コース副手

半澤 凧さん

01 経歴

2021年 本学グラフィック
デザイン学科卒業
卒業後 酒田市 飛島 地域
おこし協力隊着任
2023年 現職



02 ある一日の流れ

08:45 出勤、メールチェック
09:00 予算執行票などの作成
09:30 学生対応(備品貸し出しなど)
11:30 学食で副手仲間、もしくは先生とランチ
12:30 演習準備、ゲスト講師やモデルさん対応
14:00 演習開始、備品貸し出しや、演習の様子を撮影
16:50 演習終了後、片付けや備品の整理
17:45 退勤
以降 副手仲間と夕食に行ったり、帰宅後にデザインの仕事をしたり!

03 得意分野や以前の活動

学生時代はデザインを学んでいましたが、学科外の友人が多く、市内のお祭りの御神輿と一緒に制作しま



した。3年次に洋画コースの学生とともに福島県に滞在し、イベントの企画や運営を担当しました。この頃から深く洋画コースに係わるようになりました。

また、写真を使った作品を多く作っていました。ポートレートやポスター用に撮影・編集をすることが主でしたが、カメラを知っていく中で、映像の編集にも手を出すようになりました。

卒業後、飛島の地域おこし協力隊として、看板やサインなどのデザインしたり、SNSで島の魅力発信をしたりするかたわらで、海ゴミの回収や、島内の草刈り、漁の手伝いなどをして、地域の方との交流をはかっていました。

04 やりがい

担当する洋画コースのイベントや展示のポスターなどを業務内で制作することがありますが、先生だけでなく、学生も喜んでくれたり、学生が作るポスターやDM、ロゴなどのデザインに対して、アドバイスを求められることが多くあるのも嬉しいことです!

外部での展示やイベントに赴く際、長距離運転になることもありますが、ドライブ好きなので、平気で運転しちゃいます! 自分の好きなことで学生や先生に感謝されると気持ちがいいものです。

デッサンのモデルさんや、ゲスト講師の方、普段は会えない方々とお話するのも大好きです。副手になってなかったら出会えなかった方と、知る由もなかったお話をお聞きしたり、自分がファンだった方と仲良くなれるなんてびっくりですよ!



職員紹介③ 工芸デザイン学科副手

関 ななみさん

01 経歴

2018年 金沢美術工芸大学 美術工芸学部 工芸科漆・木工コース 卒業

2020年 同大学院 美術工芸研究科 工芸専攻 修了
漆芸工房でアルバイト及び作家活動

2024年 現職



02 ある一日の流れ

08:45 出勤

08:50 zoom授業の対応

10:30 メールチェック、学生へ連絡事項伝達

12:00 お昼休憩

14:00 出欠確認、授業の撮影、学科SNS用の写真・動画の編集

17:30 学科SNSの更新

17:45 退勤、帰宅

19:30 展示に向けて作品制作

03 得意分野や以前の活動



私は大学で漆芸を専攻していました。

卒業後も漆の制作活動を続けるため、漆芸作家としてご活躍されている大学の先輩

のもとで、アルバイトとして制作に携わっていました。この期間を通じて、自身の技術を磨き、漆の技術を向上させようと研鑽を積みました。漆の加飾技法の中では、螺鈿（らでん）を得意としています。



04 やりがい

工芸デザイン学科は、美術科の工芸コースとテキスタイルコースが併合して誕生した学科であり、現在もカリキュラムが移行期間中です。

特に、工芸デザイン学科の1期生（現3年生）が履修する授業には、学科として初めて実施する取り組みも含まれています。

体制変更に伴う難しさや大変さはありませんが、直接授業を教える立場になくとも、**大学の運営に関わっているという実感**を強く持ちました。

この**新たな仕組みづくりに携われる**ことは、大きなやりがいにつながっていると感じています。



職場環境の紹介①

01 準備室

全ての学科・コースの設置されている学生と教員のよりどころ。

日々の授業の準備を行ったり、学生への対応を行う、副手にとってのホームベース！

各分野と副手さんの特色（？）が如実に出る空間になっています！



02 大学事務局

大きな三角屋根の建物『本館』の一階にある各課のデスクが一堂に並ぶ、芸工大の中枢。

その中央に位置する教学課の職員との連携も重要なミッション！



職場環境の紹介②

ほかにも、まだまだある職場としての芸工大の魅力。

実は結構すごいことがたくさん。

そして、それが日常に。

01 毎日学食&カフェが使える喜び

学生のための食堂＝“学食”ですが、職員である我々も利用することができる喜びはひとしおです！大人になってからも、学生気分でランチできる日常。激安価格でじつにありがたい！



02 西に広がる山形市内が一望できるロケーション

大学からは山形市の景色が一望できます！広い空、季節ごとに色を変える山々、沈む夕日……。これも立派な福利厚生(?)です！



03 学内のいたる所で学生や教員の作品を展示

大学全体を美術館のような場所に……。本館はもちろん、屋外に至るまで、学生や教員の作品が飾られています！毎日美術館に通うような出勤！美術科の副手さんは自らの作品を展示することも！



01 学食&カフェ



02 展望



03 展示スペース



副手の皆さんは、美大で学んだ人も、そうでない人も、

専門や経歴、年齢も実にさまざまです。

多様な経験を持つ人たちが、同じ現場を支えています。

バックグラウンドは問いません。

みんな違うからこそ、必要なのです。

これまでの学びや仕事、そのすべてが力になります。

見えにくいけれど、欠かせない仕事。

学生と教員をつなぎ、大学の日常を支える仕事。

それが、副手です。

芸工大の多様な学びを支えているのは、多様な経験を持つ人たち。

そして、あなたのこれまでです。

join our team !!